

## ◆奨励賞◆

### 自然にふれた、またね村

神田小学校 五年

菅原 檣花

わたしがまたね村に行ったきっかけは、わたしの学校では、いつもホームルームの時間に、おたよりをくばります。そのときにたまたまくばられたのが、「平塚伊豆友好とし交流キャンプ」の、チラシでした。わたしは、それを見て自分も行ってみたいときょうみをもち、すこし心ぼそいので仲のいい友だちと、もうしこみをして行けることになりました。そして当日になり、わたしは、バスにのってまたね村へ行きました。

またね村では、いつもの生活とは、すこしちがいました。自然にみちあふれていて、しかやいのししあな熊などいろんな動物たちが身近なところにいきました。それに、ここでは「衣、食、住」のほとんどがいつもとちがいました。たとえば、「衣」は、いつもだったら着ていたパジャマも、着ずにつぎの日のふくを着たり。「食」は、焼きマシユマロをするときもふつうの竹ぐしではなく、自分たちで枝を見つけたり。「住」では、いつもは、ふかふかのベットや、ふとんをつかったりするけどそこでは、ねぶくろを、つかってねました。ほかに、またね村で、トレッキングをしたときにこのような話をききました。しかは、人げんとはちがい、1才でも子どもをうむことができてともはんしよくするスピードが速い動物です。でもだからこそ、人げんにきがいを加えてしまうかのうせいが上がってしまうためしかを狩らなければいけないじようきょうという話をききました。しか

ししようがなく狩られてしまったしかの肉をありがたくだいたりしかの皮や角なども生活の中で大切に再利用している、またね村の人たちの、気持ちがとてもよく話の中で伝わってきました。そしてそこでは、動物の命のリレーなどを深く知る事ができました。

動物たちの命の大切さや、いつもの生活が、当たり前でないことや、1日1日を今までどうやって過ごしてきたかを、感じさせるようなとてもいい体験をすることができてとても楽しかったです。もしよかったらみなさんも、足を運んでみてください。